

30年目も新作続々

日本法人設立30周年を迎えた平成最後の年、恒例のパーティーはいつも以上に盛り上がりがあった。令和になっても注目度は高い。
文・神原久栄誌 / 写真：永元秀和 TEXT Hisashi Kanbarai(MM) PHOTOS Hiidekazu Nagano

O・Zレーシング新作ホイール発表&O・Zジャパン30周年記念パーティー



中央左がO・Zジャパンの内山晶弘 代表取締役社長。4代目として就任し、すでに10年が経つという。右隣は本国から来たセガウラ氏。

イタリア生まれのホイールブランド「O・Z (オーゼット)」が日本の車好きの間で定着することになった背景には、正規輸入販売元であるO・Zジャパンの存在が貢献していることは間違いない。

世界中のモータースポーツシーンで高い装着率を誇り、製品としての完成度は超一級品。加えて現地法人のサポートがしっかり受けられる安心感は、何よりも「買う」モチベーションを高めてくれる。

そんなO・Zジャパンが、平成最後となる今年、設立30周年を迎えた。日本法人として静岡県磐田市に誕生したのは、平成元年10月20日のこと。平成13年7月には、イタリア本国のO・Z S.p.A.社の100%出資子会社となって現在に至る。

なにしろ記念すべき30周年だ。毎年

恒例となっているパーティ形式での新製品発表会だが、今回は例年以上に数多くの参加が集い、大いに盛り上がった。

発表会の冒頭、内山晶弘代表が挨拶、日本法人の4代目代表取締役社長として、30年目を迎えたことを報告し、同時にこれまで支えてくれたユーザーやショップへの感謝の言葉を述べた。

続けて新製品のプレゼンを行ったのは、O・Z S.p.A.社でプロダクトマネージャーを務めるサミュエル・セガウラ氏だ。北米で人気のインディカーシリーズでは95%、一昨年からグローバルでの盛り上がりを見せているフォーミュラEチャンピオンシップではなんと100%の占有率を占めるO・Zだけに、そのラインナップはスポーツ濃度が思い切り濃い。

いわゆるブランニューモデルとして紹介されたのは4種類。その名のとおりインディカーレースで採用されているホイールをモチーフとする「INDY-HLT」は、高精度なフローフォーミング加工が施されたもの。高い



世界のレースシーンで「勝利の鍵」を握る。2018年も、ほぼすべての世界タイトル獲得に貢献したという。

剛性を両立しながらも、とても美しい細身のスポークワークが目を引く。「スーパーツアーズモ エボルツィオーネ」は従来の「スーパーツアーズモLM」からの進化系で、広がり感溢れる15本スポークが、スマートなのにアグレッシブな走りを予感させる。

どちらもレースシーンを彷彿とさせるリアルなセンターロック風のアレンジが斬新だ。立体的な造形美が引き立つアンダーカット処理やレーザーレタリングなど、細部でもトレンドの先端を走る。

ほかにも、セカンドラインとして人気を博しているMSWシリーズからは、フィンタイプMSW30が新登場。さらに日本専用の限定カラー仕様として、MSW25が追加設定された。ライセンス委託されているsparconiは、細身のスポークの一本一本に精密なカットが施されたDRSが新たにお披露目、展示されていたラリーブロンズと呼ばれるカラーは、独特の華やかさまで漂わせる。

見てよし&走ってよし……才色兼備のO・Zのホイールたちは「令和」になっても変わらず注目を集め続けることだろう。

Indy-HLT



「i-Tecシリーズ」の新作。18-20インチの設定でチタニウムの1色だ。

MSW25



アグレッシブなスポークワークが魅力。マットブラックは日本限定色だ。

sparco DSR



7.5×17インチと8×18インチの2タイプ。ほかにグロスブラックも設定。

Superturismo EVOLUZIONE



センターロック風処理のインパクトは強烈。今後はサイズ拡大も。

MSW30



フィンタイプスポークをダイヤモンドカット処理。メルセデスを意識する。